



しらさぎ

求めて学ぶ 考えて行う 自ら鍛える

目黒区立第八中学校
学校だより NO.23
(通巻92号)
平成27年(2015)
12月15日(火)

『第9』と私

校長 飯野 博史

年の瀬の慌ただしい時期となりました。この時期になると、テレビのCMやスーパーなどでベートーベン作曲交響曲第9番「合唱つき」の「歓喜の歌」が流れるようになります。「第9」で親しまれ、すっかり日本の年末の風物詩となりました。

なぜ、年末に「第9」が盛んに演奏されるようになったのでしょうか。いろいろな説があるようです。戦時中の学徒出陣で、多くの学生たちが出征前に「第9」を聞き、戦地に赴いたという記録があります。戦後、平和な時代が訪れ人々は平和を願うとともに、心を潤す芸術、音楽を希求しました。平和を願い希望に満ちた音楽、盛んに演奏されたのが「第9」だったそうです。昭和23年頃、関西交響楽団（現大阪フィルハーモニー交響楽団）や日本交響楽団（現NHK交響楽団）などが年末に演奏したのが始まりといわれています。

「第9」は通して聴くと約70分の大曲です。交響楽団、4人のソリスト、そしてプロの合唱団と大編成で、演奏会を開くのが困難だったそうです。そこで、それなら合唱だけでも市民が集まり練習し、自分たちの手で「第9」を演奏してしまおうと各地で「市民合唱団」が盛んに編成されるようになりました。今も各地で市民合唱団が「第9」を演奏しています。

もう40年も前、学生の頃レコードで「第9交響曲」を聴き、その素晴らしさに圧倒され、レコードが擦り切れるくらい聴きました。そしていつか自分もこの素晴らしい「第9」を歌ってみたい、という夢をもちました。昨年12月、「目黒区民交響楽団創立40周年記念第9演奏会」の合唱団に応募し、合唱団の一員としてめぐろパーシモンホール大ホールのステージに立ちました。長年の夢がやっと実現しました。

夢を実現するには努力が必要でした。歌詞のドイツ語を正しく理解し発音すること、テノールの音を正確に聞き取り歌うこと、発声練習をし艶のある声を出すこと、暗譜すること、他のパートときれいなハーモニーを生み出すことなど課題はたくさんありました。楽譜も全く読めない素人なので、8月から夢中で練習しました。当日の演奏会は満員で、「第9」を歌う喜び、夢が実現したうれしさで胸がいっぱいになりました。

「第9をもっと歌いたい」…今年は12月23日（水）東京文化会館大ホール（上野）で開かれる「第9演奏会」に、合唱団員の一人として出演することになりました。合唱団はアマチュアですが、今回はプロの交響楽団、ソリストとの競演です。

「あなたの奇しき力は、時の流れが厳しく切り離したものを、再び結び合わせ、あなたの柔らかい翼の留まるところ、すべての人々は兄弟となる。」「抱き合え、幾百万の人々よ！この接吻を全世界に！」という歌詞が繰り返し「第9」に登場します。

今、世界では紛争が続く国や地域があり、テロなども起きています。解決が難しい問題ですが、「やられたらやり返す」「報復する」だけではさらにエスカレートするばかりではないでしょうか。何とか平和的に解決する方法はないのでしょうか。

ベートーベンが「第9交響曲」に込めた平和、希望、人類愛を改めて考え、行く年を振り返るとともに、来る年が平和な年となるように願いを込めて「第9」を歌います。

「戦後70年」、節目の年の締めくくりとして、年末のお忙しい時期ですが、ぜひ「第9」を聴いてみてください。

『命と人権を考える月間』 取組報告（２）

■「いのちの授業」（１学年）

11月26日、講師に助産師 岩佐寛子さんをお迎えし「いのちの授業～命の始まりから誕生へ～」を行いました。命の始まりの神秘、誕生の不思議など様々なことを学びました。感想を紹介します。

- ・保健体育の授業で赤ちゃんや卵巣、精巣の勉強をしたので、「いのちの授業」は復習のような感覚でした。でも、実際の映像や赤ちゃん人形を見て、命の大切さ、家族の思いなどがよく分かりました。また、赤ちゃんを産むのは怖いと思っていましたが、授業を受けて痛い思いをしてまで赤ちゃんを産むお母さんの気持ちがよく分かり、怖くなくなりました。私が赤ちゃんを産んだり、育てたりするのはまだまだ先のことです。今回の授業を思い出し、自分の子供にも命の話をしてあげたいと思いました。
- ・命が誕生するということはとてもすごいことなんだと改めて感じる事ができた。命ができて、その命が育つまでにいろんな苦労があることを知ることができた。これからはこの命を大切に、健康に過ごしていきたい。また、友達に思いやりの気持ちを持ち、友達の命も大切にしたい。

■「命と人権を考える授業」（３学年）

同じく11月26日、「命と人権を考える授業」を行いました。講師にトキワ松学園 佐藤 毅先生をお迎えしました。佐藤先生は「臓器移植」についての授業を提案し、研究発表を行うなど全国的に注目されています。難しいテーマ「臓器移植」を通して人権についても考えました。

- ・私は今まで死と触れ合ったことがなかったので、あまり命のことについて考えたことはなかったけれど、今回の授業で深く考えることができました。また、自分の意思で救える命があることを知り、もし私が脳死になったら臓器提供しても良いかなと思いました。今後は臓器移植のことを広く知ってもらえるように、友達や家族に話したいと思いました。
- ・「命」というテーマで貴重なお話をしてくださり、ありがとうございました。話を聞く前は正直、とても重い感じがしてあまり聞きたくありませんでした。ですが、話を聞いているうちにとても大切な話だと感じ、しっかりと聞こうと思いました。先日聞いた話をできるだけ長く頭に残し、「命」についての考え方を換え、生き方も変えていきたいと思います。
- ・佐藤先生のお話を聞いて、命の重みについて実感しました。今まで臓器移植について漠然としたイメージしかありませんでしたが、とても分かりやすく説明してくださったので真剣に考えることができました。改めて命の大切さが分かりました。



「いのちの授業」（１学年）



「命と人権を考える授業」（３学年）